

# THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



2017~2018年度 No.221

## 6月 月報

那須クラブ会長 主題  
拓こう 築こう ワイズの世界



強調月間：評価

那須ワイズメンズク



5月 (YMCA 報告会) 例会

2017~2018年度 主題  
 国際会長：(IP) Henry J Grindheim (ノールウェイ)  
 「ともに、光の中を歩もう」  
 アジア地域会長：(AP) Tung Ming Hsiao(台湾)  
 「ワイズ運動を尊重しよう」  
 東日本区理事：(RD) 栗本 治郎(熱海)  
 「広げよう ワイズの仲間」  
 北東部長：鈴木 伊知郎(宇都宮東)  
 「距離に負けるな北東部、各クラブの個性を磨きましょう」

クラブ役員 事務局  
 会長：田村 修也  
 副会長：村田 榮子  
 河野 順子  
 書記：藤生 強  
 会計：村田・鈴木  
 担当主事：藤生 強  
 ブリテン：田村・村田

5月例会データー(出席率：66.7%)  
 在籍者 6名  
 例会出席者 4名 メネット 1名  
 ビジター：4名、ゲスト：9名

今月の聖句  
 わたしたちはまた、御父が御子を世の救い主として遣わされたことを見、またそのことを証しています。

ヨハネの手紙一 4：14

6月 Happy Birthday

なし

## 巻 頭 言

会長 田村修也

私は年を重ね、老人となったが、あなたたちの神、主があなたたちのために、これらすべての国々に行われたことを、ことごとく、あなたたちは見てきた（ヨシユア23:2~3）。人は年を取ると自分の過去を振り返るものです。そこには善きにつけ、悪きにつけさまざまな思いが甦ります。そこには人生の中で得た幸いを喜び、失ったことへの悲しみ、かなわなかったことへの悔しさがあるでしょう。多くの人は自分の過去を振り返って、何を得たか、何を得なかったかを考えるものです。とはいえ、これらの振り返りは、すべて己の目から見た自分の過去であります。しかしヨシユアは自分の目をもって過去を見ませんでした。

彼は神の目を借りて過去を見なさいと言っているのです。己の目をもって見る過去と神の目を借りて見る過去は様相が一変します。そこには何を得たか、何をできなかったかの業績の評価ではありません。

すべてに神が働いてくださったこと、与えられた恵みへの感謝であります。ヨシユアはそれを「あなたがたはそれを見てきた」と言います。はっきり見えるでしょうと言っているのです。年を取り、振り返って、自分のしてきたことを見るのではなく神の働きが見えるなら、その人生はどのようなであっても、よしとされる人生であります。（賀来周一著「365日の聖書」）

2017~2018年度の歩みを振り返って見て、準備の不十分だったこと、各プログラムの実施に当たってもっと多くの方々へ呼びかけることがなぜできなかったのか、参加して下さった方々にそれなりの充実感、同じ時を共に過ごすことが出来た喜びを感じて、次への期待を生み出すことが出来たのか等々思い返すこと多々であります。今歩んできた1年間のブリテンを並べて見て、ただただ「すべてに神が働いてくださったこと、与えられた恵みへの感謝」。のみであります。会員の方々の皆さまのご協力に心から感謝いたします。

「地域へつなげ那須ワイズ」7月から河野新会長の年度が始まります。新たな歩みの上に祝福豊かなことを祈ってやみません。

## 5月（YMCA報告会）例会

書記 藤生 強

日 時： 5月25日（金）午後6時30分～

場 所：日本基督教団 西那須野教会

参加者：メン：田村、河野、村田、藤生、メネット：  
田村、ビジター：塩澤とちぎY総主事（宇都宮クラブ）、

鷹箸とちぎY理事長（宇都宮東クラブ）、とちぎYスタッフ（山口、平山）ビジター：西那須野教会牧師潘ご夫妻、ユースリーダー（ぴーち、みるき、やあ、ちゃっぴー、によろ、ぷりん、ケイティ）

『那須YMCAの現状報告と将来展望』と題し、とちぎYMCAより鷹箸理事長と塩澤総主事をゲストに招いて例会を開催しました。

初めに、平山那須YMCA担当スタッフより那須YMCA活動の現状報告を、スクリーンに映し出された活動写真を解説しながら行いました。那須ワイズとの協働で行う「地域支援活動」、那須Yユースボランティアリーダー会が担当し行う「野外教育活動」、那須Yを会場に行う「語学教育活動」、国際医療福祉大学との協働で行う「チャレンジド活動」、運動あそび・英語あそび・体験活動サタデークラブなどを行う「西那須野幼稚園委託活動」、そして国際医療福祉大学学生を中心としたユースボランティアリーダー達が活躍する「ユース活動」などの様子が報告されました。例会にはユースボランティアリーダー7名も参加しており、「ユースと共に歩む那須YMCA」を感じる事が出来ました。那須YMCAは設立以来スタッフが常駐していなかったため地域向け活動が多く展開できませんでしたが、平山那須Y担当スタッフは生まれも育ちも住まいも大田原と「本物」の常駐なので、これからは今まで以上に地域に根差した活動が出来るものと感じました。

次に、塩澤総主事より那須YMCAを含むとちぎYMCAグループの将来展望の話伺いました。日本のYMCAは2017年10月に、新しい時代に向かったの決意として『YMCAブランドコンセプト』を取り決め、新しい『ロゴ』と『スローガン／みつかる、つながる、よくなっていく』を掲げました。とちぎYMCAもブランドコンセプトの「ポジティブネット」をキーワードに、「お互いに支え合い」「共に生きる」ことを願ってYMCA活動を行っていく説明を受けました。

その中で、宇都宮市との協働（委託）で子育てに困難を抱える家庭の子どもを参加対象とした「子どもの居場所」活動を特別養護老人ホームYMCAマイホームきよはら内に今秋開所予定の報告がありました。活動の目的や願いを例会に参加した山口担当職員より説明があり、まさに「支え合い、共に生きる」の願いが子どもの世界に必要なことを訴えました。

また那須YMCAを含め休止状態だった「ランチ運営委員会」を再開させることを掲げました。そして那須YMCAランチ運営委員会にて、那須地域のニーズを探り、YMCAとして何をすべきかを検討して

いくことも確認されました。

那須YMCAが多くの方々にとって「みつかる、つながる、よくなっていく」「場、になるよう、2018年度を進んでいきたいと願っています。

## 今後の予定

### ・第21回東日本区大会

日時：6月2日（土）午後1時～

場所：沼津「プラサヴェルデ」

### ・6月役員会（第2例会）

日時：6月5日（火）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：6月例会、新年度計画、7月例会、6月号ブリテンの発行等。

### ・6月第1例会（役員交代式・次年度計画）

日時：6月22日（金）午後6時30分

場所：西那須野教会1階ホール

内容：役員交代式、新年度の計画について懇談

会費：500円（メンバーのみ）。

連絡先：田村会長（090-5545-6763）

### ・第13回とちぎYMCAインターナショナル・チャリティーラン2018

日時：6月24日（日）午前9時～

場所：ろまんちっく村

### ・7月役員会（第2例会）

日時：7月6日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：7月例会、8月例会、7月号ブリテンの発行等

## 6第2例会（役員会）報告

日時：6月5日（火）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、田村メネット、平山主事、

協議事項

1. 5月（YMCA報告会）例会についての反省  
久しぶりにユースリーダーとの交流の機会が持てた。  
ユースリーダーの参加しやすい時間等を考える必要がある。

2. 6月例会について

6月22日（金）午後6時30分～、会場は西那須野

教会、役員交代式、次年度計画についての懇談会。夕食は弁当。

3. 新年度に向けて

標語は“地域へつなげ那須ワイズ” 河野次期会長より提出の資料に従って協議。7月の例会は、ユースリーダーとの懇談をする場とし、ユースとの協働を模索する。昨年度より実施した高齢者講話をどのようにつないでいくのか。ユースリーダー向けのプログラムの実施（鈴木ワイズの救急法等）。

4. 6月ブリテン発行について

いつも通り早い目をお願いする。

5. チャリティーラン、6月24日（日）、ろまんちっく村で開催。那須ワイズとしては、20,000円の協賛金。シイタケ昆布の販売。村田が参加。

## 旧西那須野（那須西原）の緑と水（第62回）

会長 田村修也

陳情先の金井之恭についてまたまた道草をしてしまいました。次は陳情者に移ります。河田景与です。この方は鳥取藩士で、幕末に坂本龍馬たちと蝦夷地開拓を計画しています。明治戊辰戦争では板垣退助参謀の率いる東山道先鋒隊に加わり闘っています。その後、政府軍の下で参謀に就任。明治に入って、初代の鳥取県令となり、次いで元老院議員に就任。子爵となって華族に列せられました。明治23年錦鶏間祇侯に任じられています。戊辰戦争後、鳥取藩出身者では最高の450石の恩賞を受けています。元老院議員、錦鶏間祇侯の履歴と申しますと、前回の金井之恭と同じ履歴を持っている事になります。まさに同時代、同じ職にあった方であります。更に付け加えたいことは、板垣退助参謀の下で東山道先鋒隊に加わり闘っているということは、栃木県下、宇都宮、今市、日光の戦いにも参戦しているということが考えられます。余談ですが、今市での戦いの後、日光に進軍した新政府軍は大鳥圭介率いる旧幕府軍と戦闘を交えることになるのですが、東照宮等を戦火から守りたいという地元の人々の要請を考慮して、旧幕府軍は日光から深い六方沢を経て五十里へ、山王峠を経て田島、会津へと向かって行きました。現在も日光の東照宮への玄関口である神橋のすぐ側に、板垣退助の銅像がたっています。これは板垣退助と大鳥圭介が話し合っ、日光を戦火から救ったことへの功績を讃えて建てられたと聞いております。この後、旧幕府軍と会津軍は、那須連山の大峠をこえて、大田原藩の攻略に向かって那須における戊辰戦争の火ぶたが切られて行くのですが、その話はまた別の機会といたします。次の陳情者に移ります。

渡辺國武です。諏訪高島藩士の家に生まれ、兄は千秋。藩校長善館に入り、初め佐久間象山に学びを志しましたが、暗殺されたため江戸藩邸に勤務しながらフランス語などを学びました。京都御所警備に当たっていた時、大久保利通が鑑札無しで御所に入ろうとしたのを拒否したことが縁で、その後大久保に登用され千秋と共に民部省勤務。大蔵省勤務となり、大隈重信、松方正義、大久保利通のもとで地租改正に取り組みました。高知県知事時代は西南戦争の際、高知県で西郷軍に呼応する動きを阻止しています。その後伊藤内閣のもとで大蔵大臣を歴任し、子爵に列しています。この渡辺國武が大田原の西那須野境に開拓農場を所有していました。太田原には明治以前に大田原宿に隣接して大貫原と呼ばれる大田原藩の戦闘訓練をする練兵場がありました。この原野を大田原旧藩士鈴木義達他が30町歩、商人の細小路孫八他が40町歩、同じく商人の成田久八が個人で28町歩とそれぞれ開墾しました。この3農場他が明治20年に渡辺國武の所有となりました。長地開墾と呼ばれ同郷の岩本末吉が管理の任に当たりました。田嶋董著の西那須野教会史には「明治34年、大田原において、東京連会が開かれた。この頃大田原には渡辺開墾管理者岩本末吉一家が居り、大田原町民中に、重きをなしていた篤信の一家があった」とかかれています。この御一家は後西那須野教会の会員となり、ご子息の武次郎兄ご夫妻は現在の大田原市庁舎の土地と隣接の公園を市に提供しています。また長女のノブさんの夫である亨兄は臨終を目前に官野牧師夫妻と私が立ち会って病床洗礼と聖餐式を致しました。西那須野町史には、さらに「昭和22年農地改革によって耕地は全部小作民の所有に帰しその外所有していた大田原旧城址は悉く大田原市に寄付して今は公園となり無辺洞公園とよばれている」と書かれてあります。太田原藩の城跡は、明治20年代にこの渡辺國武の所有となり、岩本末吉が管理していたこととなります。(以下次号へ)

## 西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園  
理事長・園長 福本光夫

「いい人ほど勝手な人間になれないから、つらくて苦しいのや。人間が動物と違うところは、他人の痛みを、自分の痛みのように感じてしまうところなんや。ひよっとすれば、いい人というのは、自分のほかに、どれだけ、自分以外の人間が住んでいるかということで決まるのやないやろか」(灰谷健次郎「太陽の子」理論社1978)

子どもたちが神様に守られて、健やかに成長していることを感謝いたします。

全ての子どもと子育て家庭の最善のためにスタートした幼稚園としては61年目、幼保連携型認定こども園西那須野幼稚園としての5年、国の「子ども・子育て支援新制度」の欠陥により保育の質を保てないために認定を返上し、こひつじ保育園との合同保育で3年になりました。建学の精神である「自分を愛するように、あなたの隣人をも愛しなさい(聖書)」を念頭に、全ての子どもたちの健やかな成長を願いスタッフ一同が愛を持って、1人1人の子どもを大切に保育します。今年度当初教師1人あたり約??名の園児という良い人的環境により、更なる保育の質的向上を追求しております。また、子育て支援についても、未就園児の親子プログラム、宮城教育大名誉教授の長谷川茂先生の発達相談、今年で6年目になる保育園のリリールーム(月・水・金)は、ログハウスで保育士2名が担当しています。県内初の民間「児童発達支援センターシャローム」は2年目になりました。しょうがいのある子どもたちへの支援の質的充実、そして、小学6年生までの共に育ち合うインクルーシブ(包括的)な環境を質的に高めているところです。昨年度は、専門書にこの園の取り組みについて原稿を依頼されたり、大学の先生も含めた視察が沢山ありました。

さて、正解の無い時代のなか、今の子どもたちはその時々々の適解を求めて生きることになります。生きる力が求められます。冒頭での「太陽の子」の引用にあるような、よく生きる力です。その為には、非認知スキルといわれる折れない心(レジリエンス)、自己統制力(意思・感情・行動)、(価値観の違う人と)一緒にやり遂げる力が必要とされています。そして、その基礎の部分には、幼少期に、子どもたち、親、他人の大人、そして教師との関係性の中で培われます。ある意味、幼稚園でのPTA活動は、子どもの将来にも影響する、とても大切な時期の奉仕活動の一つです。保護者の皆様、PTA会長をはじめとする役員の皆様には、本園の教育をご理解下さり、子ども達のためにご協力いただけることにお礼申し上げます。

最後に、子どもたちのより良い自己形成のために、地域や他団体の方からもたくさんのご協力を頂いております。ここに御紹介し、結びとします。中学生の「マイチャレンジ」、五軒町区様とのクリスマス会。「地域親」としての「更生保護女性の会」の皆様による子どもたちとの昼食会は14年目になり、幼児から小学6年生までがアウトドア活動などの実体験や遊びを通して育ち合う(財)那須YMCAと大学生ボランティア・リーダーによる「サタデークラブ」は17年目に



なりました。ご協力をご感謝申し上げます。（西那須野幼稚園PTA広報誌「あゆみ2018年度」加筆修正）

## アジア学院たより

学校法人アジア学院  
校長 荒川 朋子

### 北東アジアの和解

5月末の1週間、私は北東アジア・キリスト者和解フォーラムというプログラムに参加する機会を与えられた。これは2014年にアメリカのデューク大学神学部和解センターとメノナイト中央委員会によって始められたフォーラムで、5回目の今回は京都と琵琶湖を拠点に行われた。北東アジアの3つの国と2つの地域、つまり日本、韓国、中国、台湾、香港のキリスト者、それに主催者側の10人ほどのアメリカ人など、合計約90名が集まって、北東アジアの平和と和解について話し合い、キリスト者として参加者それぞれの役割と課題を見出す、とても意義深い、また心に大きな賜物を得た貴重な体験だった。

このフォーラムを終えて感じたことは、私達日本人は韓国や中国の人々と比較して、日本が北東アジアの一部であって、政治でも経済でも文化でも運命共同体であるという認識がはるかに薄いのではないかということであった。私自身、日本が「北東アジア」の一国であって、自分が「北東アジア」の一員であるという感覚を自分がどこまで持っていたか疑問に思わざるを得なかった。一方で、中国、台湾、香港、そして韓国の方々の日本の見方は、恐らく一般の日本人が思っているのとはずいぶん違っていて、今の我々日本、また日本人というのは過去の悲惨な歴史認識の上に見られているのだと改めて実感した。その歴史認識の中には、過去に日本軍によって苦しめられた経験に対する痛み、悲しみそして怒りがとても色濃く、また重く残っていて、私達日本人はそのことを深く理解せねばならないと思った。そして5日間彼らと多くを話し、共に学び、神を賛美し、歌い、祈り、食卓を共にしながら、その痛みと悲しみの理解、そして謝罪なしには、私達北東アジアの人々は、互いに本当に理解し合うことはできず、本当の平和も訪れないのではないかという認識を持ったのであった。

プログラムの中で、主題講演をした神学者が「和解とは衝突や対立の後に与えられるギフト（賜物）」とおっしゃっていた。言うまでもなく聖書で言う賜物とは、単なる贈り物ではなく、神様から与えられた恩恵や祝福、また能力のことだ。また、賜物は自分の欲望を満たしたり、自己実現をしたりするためではなく、

神様が望まれることをするために与えられるものだ。和解が神様からの賜物であるならば、それはどちらかの一方の一方的な利益のみを満たすような状態では成り立たないし、また神様の望まれない方向にあるならば、決して成就されないことになる。さらにこの神学者は、「衝突や対立」を表す言葉として英語でconfrontationと言っていたのだが、これは「直面」「対面」といった意味も併せ持つ。私はその言葉を聞いて、和解とは双方がまず互いにしっかりと向き合えないと実現しないということなのだという風にも解釈した。それぞれ異なる理解、認識をしっかり聴いて、そこから目をそらずそれを直視することからしか、和解への道は始まらないということであると思った。実際に私はフォーラムの中で参加者たちが「対話を初めたい」「対話を続けていきたい」と言っているのを何度も聞いた。

お隣の朝鮮半島で歴史的な動きが見られようとしている時に、私達日本人は隣国の声を今こそしっかり聴くときにあるのではないかと思う。それなのに、それとは全く逆に、耳を固くふさいで、相手をたださげすむ言葉を叫び続ける人たちがいる現実をととても悲しく思う。しかし、そうでない努力を地道に続けている人達もまた多くいることを覚えていたい。そして互いの違いをしっかりと理解し、それを受け止め、その先に双方の平和を双方が望んだ時に、和解はギフトとしてきっと神様から与えられると信じて、まずは自分のできることを始めていきたい。

## 第21回東日本区大会の報告

副会長 村田 榮

6月2日（土）午後1時から、沼津のプラザウェルデで第21回東日本区大会が開催された。東日本区と西日本区より、480名程度の参加をえて盛大に開催された。那須クラブより村田メン、メネットが参加した。会場は、ホールという感じでなく催し会場でフラットな感じがするところで、沼津クラブと富士山部の方々の手作りといった雰囲気でした。

西日本区の旧知の方々、那須クラブに転会してきてから東京目黒クラブとの交流の中でお知り合いになっ



た方々との1年ぶりの出会いがありました。

メネットは、午前中のメネット会に参加をし、開会式の望みま

した。オープニングは、高校生による和太鼓に始まり、いつもバナーセレモニーに参加のため見ることができません。迫力ある音を聞いただけです。セレモニーの在り方を考えてほしいと願います。開会式は、開会あいさつに続き、東日本区理事の挨拶、沼津市長、YMCA同盟の総主事、西日本区理事の来賓挨拶の後、この1年間で神の御許に召された方々のメモリアルアワーと続きました。一休みの後東日本区アワーで理事報告、部長報告が行われた。

記念公演は、バルセロナオリンピックで水泳200m平泳ぎで金メダリストの沼津出身の岩崎恭子さんによる「幸せはいつも自分でつかむ」と題して2020年の東京オリンピックに向けての話を織り交ぜて、オリンピック後の挫折から立ち直って、現在までのお話があった。

その後休憩をはさんで同じ建物の中に会場での晩餐会が執り行われた。他のクラブの方型との交流を行った。翌日は、事業主任による報告と表彰が行われた。那須クラブは、ノンドロップとユース事業の2表彰があった。那須クラブとして、すべてに参加し表彰を狙うことをできないにしても、何かに特化して優秀賞を狙いたいものと感じた。また、東京目黒クラブの名前がないのは大変さみしく感じました。次年度は、宮内理事のリーダーシップのもとにワイズダム運動が発展してほしいと願います。次年度の第22回東日本区大会は、代々木オリンピック記念青少年センターでの開催です。一人でも多くのメンバーの参加を願います。

## YMCAだより

### 5月報告

#### ・西那須野幼稚園 運動遊び

年長 3回 5月は跳び箱やボール投げを中心に行っていました。

ねらい

跳び箱では子どもたちの敏捷性を高めたり、両足踏み切りのタイミングなど細かいポイントに目を向けていきました。

ボール投げでは投げる・取る動作の習得や遠くに投げることで体の使い方を学んでいけるようにしていきました。

年中 3回 5月はマット運動を中心に行っていました。

ねらい

全身的柔軟性を高めたり、全身運動により身体の使い方に目がむくようにしていきました。

5月サタデークラブ報告

5/12 ハイキング@長峰公園

5/19・26 ネイチャークラフト@西那須野幼稚園  
・5月Yキッズ報告

那須のリーダーが企画・運営などを行っている定例活動のYキッズが行われました。今年度初のYキッズということで5月13日にとちぎわんぱく公園に行きました。活動はウォークラリーを予定していましたが当日はあいにくの雨。わんぱく公園の「こどもの城」で遊ぶことになりました。恐竜の滑り台やボールプール、水の上に浮かぶオオハスに乗れるなどたくさんの遊具があり子どもたちも目を輝かせていました。グループタイムではリーダーやグループの友だちと相談をして遊びやどんなことをするか決めている姿が見られました。また、午後の幼稚園でのレクリエーションでは、猛獣狩りやなどのゲームを通してグループの友だちだけでなく他のグループのメンバーに関わることができ、たくさんの友だちができたようでした。



次回は6月10日にアウトドアお菓作りを予定しています。

### 6月予定

#### 【第13回とちぎYMCAインターナショナル・チャリティーラン2018】

また今年もチャリティーランが開催されます！当日のランナー、物品寄与、運営ボランティア等を募集しております！是非皆様のご参加をお待ちしております。又、那須ワイズメンズクラブより寄付金を頂いております。毎年のご協力・ご支援どうもありがとうございます。

日時：6月24日（日）9：00～14：00

場所：ろまんちっく村

主催：公益財団法人とちぎYMCA

ワイズメンズクラブ（宇都宮・宇都宮東・足利・那須）





## 【とちぎYMCA・那須YMCA 6月活動予定】

サタデークラブ

6/3・9 アスレチック@八幡山公園

6/23・30 クッキング@西那須野幼稚園

Yキッズ

6/10 焼き板など@森林公園

6/24 第13回チャリティーラン@ろまんちっく村



- ①遠藤さやか(ちゃっぴ〜)
- ②国際医療福祉大学薬学部薬学科1年生
- ③山梨県
- ④ボランティアがしたかった
- ⑤赤城プレキャンブ

私が初めて参加したYの活動だったため

- ⑥薬剤師
- ⑦YMCA大好きです

## ユースリーダーのつぶやきコーナー

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言



- ①小菅乃愛(によろ)
- ②国際医療福祉大学 薬学部 薬学科1年
- ③宮城県

④自分がメンバーだった小学生時代、本気に楽しい記憶しかなくて、今のメンバーにもそうなってほしいと思ったから。

⑤赤城プレキャンブ

リーダーとしては初めてのYの活動だったし、たくさんの人と関わることができて、Yの雰囲気を出し出すきっかけになったから。

⑥薬剤師になりたいです。

⑦YMCAただいま♡

## 編集後記

・皆さんより原稿は、早くいただいたのに遅くなってしまい申し訳ありません。その理由の一つは、小生の過ちでほとんど出来上がっていたブリテンを間違えて消去してしまったことです。皆様よりの原稿を探すために削除したメールよりより一つ一つを探し出し、編集のし直しをいたしました。恥ずかしい限りです。

・ブリン発行が遅れておりましたところ、元東京目黒クラブの福島正氏より、那須クラブのチャーターナイトの集合写真が送られてきました。那須クラブ設立22年がたちますが、チャーターナイトの様子とその時のプログラムも飛散しております。20周年記念式を行うにあたって当時の様子を知る資料をと探しましたが見当たりませんでした。今回の写真は、本当に貴重なものとなりました。写真をデータ化し永久保存をします。どなたか資料があればお知らせください。



那須ワイズメンズクラブ 国際協会加盟認証状伝達式 於:ウェディングプラザ 鹿島